

「病棟薬剤業務実施後の薬剤師の介入による効果について」

へのご協力をお願い

1. 研究の背景と目的

山口県立総合医療センターでは、病棟薬剤管理業務を行い安全で効果的な治療を提供できるよう努めています。そのために患者への服薬指導の他、疑義照会等の「能動的介入」や医師・看護師等からの「質疑応答」を行っています。今回、病棟薬剤業務における能動的介入、質疑応答に関する調査を行うことで、現状の把握と問題点を解析し、今後の業務改善に役立てることを目的とします。

2. 研究対象者

2016年4月から2021年3月までの期間に当院に入院された患者を対象とします。

3. 研究の方法

病棟に常駐している薬剤師による「能動的介入」や「質疑応答」についての記録を Excel ファイルに入力し、これを年度毎に分類、分析します。

4. 臨床研究を実施することにより期待される利益および予想される不利益

本研究は既存情報を用いた研究であり、直接的な利益は生じません。しかし、研究成果により今後業務改善され、将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。不利益に関しては、研究対象者に対して介入を伴うことがないため、不利益は生じません。個人が特定されることのないよう情報の取扱いに配慮します。

5. 同意と拒否

本研究の実施についての情報を山口県立総合医療センターのホームページに公開することにより、直接の説明や同意をいただく手続きに代えさせていただきます。対象者に含まれていると考えられ、本研究に同意をいただけない方は担当者までご連絡ください。

6. 担当者

施設名：山口県立総合医療センター（代表：0835-22-4411）

責任者：薬剤部 家永 友昭